



221号

2018年

4月19日

発行所 岡山大学職員組合

〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1

電話 086-252-1111 (代)

7168 (内線)

直通 TEL&FAX 086-252-4148

ホームページ <http://hb4.seikyoku.ne.jp/home/ODUnion/>

メールアドレス ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp

目次： 1：委員長あいさつ 2：組合の成果 3～5：各単組からの呼びかけ 5：入試手当と出前講座の交通費
6：賞与の評価に関する要求書提出 7：全大教文科省会見報告 8：旅日記

岡山大学職員の生活と権利を守るために いっしょに組合やりませんか！

あなたも 岡山大学職員組合に



ようこそ岡山大学へ

執行委員長 稲垣 賢二

桜の花とともに新年度が始まりました。新たに岡山大学に就職された皆さん、おめでとうございます。心から皆さんを歓迎致します。私たちは皆さんと力を合わせて岡山大学をよりよくしていきたいと思っています。皆さん、一緒に岡山大学の教育・研究条件をよくし、働く環境を改善していきましょう。そのために教職員が自主的に作っている組織が、岡山大学職員組合です。今回は、職員組合の組織と活動を紹介します。

岡山大学職員組合には現在ほとんどの学部に属する数百人の組合員がおり、大学側が無視できない組織規模を有しています。全国的に見ても5本指に入る規模です。立場の弱い労働者が交渉をして成果を勝ち取っていくためには、この組織規模を保つことが重要です。

岡山大学職員組合は各学部の単位組合の連合体です。現在、法文経、教育、工、理、農、医、附属学校園の7単組があり、単組に加入することで自動的に全学の岡山大学職員組合に加入することになります（単組がない場合は連合体に直接加入します）。このような構造になっていることで、組合活動は各学部等の状況・要求にも、全学的な状況・要求にも対応することができます。こうして組合活動が多様で身近であるため、一定の組合員数を維持できていると思います。

大学が法人化されてから、権限が大学執行部に集中してきました。学長のリーダーシップやトッ

プダウンにより大学の方針が決定されるようになりました。しかし、岡山大学の運営にはボトムアップにより各構成員の意見や提案を吸い上げることも重要で、執行部もそのことを重視するという方針をもっていると言われていています。しかし、このボトムアップは必ずしも有効に機能していないのではないのでしょうか。このような状況で、大学の執行部と直接交渉するのは、各単組が集まって作っている連合体である岡山大学職員組合です。岡山大学職員組合のホームページの過去の「組合だより」をご覧になれば、これまでの活動やその成果を理解して頂けると思います。

岡山大学では前執行部時代に性急に行った大学改革の問題点が顕在化してきています。その最たるものが60分、4学期制でしょう。先日行われたアンケート調査でも評価する意見はわずかでした。教育負担が増したが、効果が上がっていないのが現状で、早急に改善することが求められています。年俸制の改善や新規採用の教職員が月給制も選択できるようにすることも求めています。部局を越えた提言ができるのは職員組合ならでの活動です。今後も岡山大学の教育・環境や教職員の権利・利益擁護のためにも活動を続けていきます。皆さんも組合への加入を是非検討して下さい。

岡山大学職員組合では、文化・レクリエーション・学習活動などの全学的なイベントも数多く開催しています。皆さんと楽しく組合活動を通じて交流できればと思います。いっしょに組合活動しましょう！



組合活動を通じて、以下のような成果を上げています！

- * 有期雇用職員の5年超えを実現
- * ハラスメント防止委員会の設置 実現
- * 3年次編入「入試手当」の支給 実現
- * 育児参加休暇 延長
- * 子の看護養育休暇：学校行事への出席等を含め、対象を小学校3年生に拡大
- * 臨時特例法による給与削減に対し、2012年度は全国トップレベルの減額幅圧縮、13年度は調整手当プラス2%を獲得
- * 夜間看護手当：1ヶ月に8回を超えて夜間看護した場合は1回につき2,000円を追加支給
- * グッドジョブセンターへの正規職員配置を要求 実現
- * 学長選に向けてアンケートを実施し、意向調査の判断材料にしました。
- * 年俸制導入、60分授業・4学期制導入の問題点を明らかにしました。

- ① 各学部の組合（単組）に加入することで、全学の「岡山大学職員組合（連合体）」に加入したことになります。
- ② 「組合費」は単組毎に異なります。連合体分は毎月各職級の80号俸の0.5%です。
- ③ 有期雇用職員の方も加入できます。
- ④ 組合の活動には、単組毎の活動と連合体の活動があります。連合体は、大学執行部との団体交渉、学習会、レクリエーション活動、コーラスサークル、「組合だより」の発行、全国の大学組合との連携等を行っています。

環境理工学部、薬学部、全学センター等の教職員、本部職員の方は、直接「連合体」に加入できます。
 学内便、メールにて連合体事務室（岡本）まで、ご連絡ください。
ODUnion@mb4.seikyuu.ne.jp



組合費は単組ごとに異なり、連合体分に各単組分を加えた金額になります。
 連合体分は、職級別に定めており、毎月、各職級の80号俸×0.5%（100円未満切り捨て）になります。

	1級	2級	3級	4級	5級	6級
教育職員	1,400円	1,700円	2,000円	2,200円	2,600円	
一般職員	1,100円	1,400円	1,600円	1,800円	1,900円	2,000円
医療職員	1,100円	1,400円	1,600円	1,700円	1,900円	2,000円
看護職員	1,300円	1,400円	1,600円	1,700円	1,900円	2,100円

年俸制の教員は、教授：教育5級、准教授：教育4級、講師：教育3級、助教：教育2級、助手：教育1級の組合費と同額となります。なお、非常勤職員等は別途規定があります。

短時間勤務職員の方の組合費は、一律500円となっています。

この機会にぜひ組合加入をご検討ください。

（加入用紙は、最後のページにありますので、切り取りお使い下さい。）



各学部単組もあなたの加入をお待ちしています！

法文経学部職員組合

法文経職員組合では、平成29年度においても、夏のピール大会、秋以降開催の文化教養講座を通じて、組合員の皆様の親睦を深めるだけでなく、大学執行部からの様々な難題に組合員の力を合わせて対処してきました。特に、今年度は、3学部併せて9名の方が定年を迎えられるということ、そのうちの6名の先生に文化教養講座の講師をお願いしました。いずれも20~30名の方々の参加をいただき盛況裏に終えることができました。

皆様ご存じのように、昨年度から60分4学期制がスタートし、多くの教員が授業時間を従来より3分の4ほどに増やして教えています。一方で会議や雑務などの時間は圧縮されることはないもので、一番多く時間と労力をさくべき研究活動を圧迫しています。また、5年間の任期付き雇用という改正労働契約法がスタートして最初の5年を迎えようとする中、法文経でも雇い止めがでる可能性も出てきています。本来、5年以上働いたものを無期雇用に転用することで働く者の権利と生活を守るのが法律の趣旨であるはずですが、こうした問題には一人一人の力ではどうしようもなく、皆で結束して対処していく必要があると存じます。今年度から岡山大学法文経に職を得た方々、また今まで組合に加入していなかった方々、一度、組合を離れてしまっただけでもう一度、組合加入を考えている方々、是非、活動を通して岡山大学を法文経からよくしていきたいように。

理学部職員組合

(連絡先)
委員長 吉岡 伸一 内線 7487
yoshioka@law.okayama-u.ac.jp
書記長 鈴木 真理子 内線 7552
suzuk-m1@okayama-u.ac.jp



理学部は5学科からなり約180人の教職員が所属します。理学部職員組合の組合員数は25名です。あまり大きな組織ではないですが、お互いの風通しはよく、理解や親睦は深いと思います。毎年恒例の夏のピアパーナイや冬の新年会などの各種催しも、相互の絆を深めているのだと思います。

農学部職員組合

(連絡先)
委員長 山川 純次 内線 7894
ufeq0285@cc.okayama-u.ac.jp
書記長 川崎 慎司 内線 7803
kawasasaki@science.okayama-u.ac.jp



もちろん、我々は遊んでいるだけではありません。理学部においては岡山大学の中でも目立って活発な研究が行われていることはご承知のとおりです。そして労組においても、理学部は執行部運営に様々に関わってきました。現在の大学の運営環境は、歴史的な厳しい局面にあります。研究教育が盛んな理学部こそ、教職員の待遇や職場環境改善への気持ちが強いと思います。現在の岡山大学は、改革の名のもとに学長のトップダウンで学内の十分な理解を経ずに60分授業・4学期制を導入し、教職員のみなならず学生にも不興を買っているのは皆さん実感されている通りです。また、半強制的に教職員に押し付けている年俸制は、制度そのものが大変いい加減なものであることがわかってきています。その他にも一般社会では考えられないような理不尽を事ある毎に感じながら、みなさん日常の仕事に忙殺されていると思います。組合は、そのような大学の運営の問題点を黙って受け入れるのではなく、真正面から正々堂々物申す事が認められた唯一の組織です。組合がしっかりと機能することは、結局は大学の運営がきちんとしていくことです。これはすべての職業で実証されています。教職員が困難な状況に置かれた今こそ、一人でも多くの方に理学部職員組合に加入していただき、その影響力を増すことで、共により良い職場を作り上げたいです。

農学部職員組合では「芋掘り会」の開催や労働環境に関するアンケートおよびアンケート結果に基づいた学部長・山陽圏フェリス科学センター(FSセンター)長との懇談会を実施しています。(2015-2017年度は学部長との懇談会のみ実施)「芋掘り会」はFSセンターの全面的な御協力の下、たくさんのお芋を収穫する喜びを味

わっていただいております。農学部だけでなく、様々な部局から毎年多くの方々にご参加いただきご好評をいただいております。アンケートでは労働環境に関わる様々なご意見・ご要望を伺い、それらを踏まえて学部長・FSセンター長と意見交換を行うことで、微力ではありますが労働環境の改善に努力を続けています。また、組合のメーリングリストやウェブページを活用して、組合員の皆様との迅速な情報共有に取り組んでいます。

農学部職員組合の活動にぜひご参加下さい。

(連絡先)

委員長 三木 直子 内線 8377

miki@okayama-u.ac.jp

書記長 鶴田 剛司 内線 8336

tsurutafe@okayama-u.ac.jp

工学部職員組合



新入職のみなさん、ようこそ岡山大学へ。工学部職員組合は、大きな組織ではありませんが、職員のみなさんが「岡山大学はいいね」と笑顔で言えるような労働環境構築のために様々な活動をしています。特に勤務時に「あれ？何か変、おかしい」と感じることから大学運営に至る様々な問題に対して改善提案や要求を精力的に行っており、数多くの成果も残しています。

大学は問題（ハラスメント、雇用、給与、退職金など）をあれこれと山積みしており、それらを一人で解決することは難しいです。また、そのような状況で、みなさんは「あれ？何か変、おかしい」と感じることを解決すること無く、つつい一人て我慢していませんか？労働環境、時間、給与、休暇そして大学運営に関わることはもちろん、それ以外でも構いません、「あれ？何か変、おかしい」と感じることを、ともに話し合い、ともに考え、改善していきませんか？少しの勇気と時間をいただければ、工学部職員組合は、そのような問題を考え、改善していきたいと思います。まずは立ち話で結構です。ぜひ、お気軽にご相談下さい(工学部職員組合に対して、男性の多いイメージを持たれているかもしれませんが、女性も多数いらっしゃいます)。きっと、悩んでいる問題の解決策と新しい世界が待っていると思います。

(連絡先)

委員長 上森 武 内線 8033

uemori@okayama-u.ac.jp

書記長 大西 孝 内線 8042

onishi@mech.okayama-u.ac.jp

教育学部職員組合



教育学部教職員組合では、委員長以下、書記長、会計、広報、レクリエーションを担当する執行委員6名(1年任期)をもうけ、組合員が働きやすい労働環境を作るべく組合活動を行っています。

現在の構成員は、教員のほかに、有期事務職員の方も組合に加入されています。

組合の活動は、活動内容を紹介する機関紙「マスカット」(不定期)を発行したり、福利厚生事業として、恒例行事となった年二回の懇親会の他に、音楽や演劇鑑賞に補助金を出したりしています。過去には一泊研修旅行を行ったこともあるようですが、業務が多忙になってきていることから、半日遠足やそば打ち体験、今年は打ち上げ付きボーリング大会を実施予定です。いずれも、教職員同士の情報共有と、親睦を深め連携を強めることを期待しています。

私たちの職場環境は、私たちが協力し合い、意識して守って行かなければなりません。組合では、学部執行部との団体交渉を通じて組合員の声を伝え、職場環境の改善に取り組んでいます。全学職員組合の質問状や要望書、団体交渉の結果を組合メンバーへ伝え、様々な労働環境に関わる問題に取り組んでいます。

現在教育学部でも、有期雇用職員の雇用問題への対応という喫緊の課題を抱えている他に、平成30年度にスタートする教職大学院への移行という問題も抱えています。少子化問題への対応は大学全体の課題ですが、教育という社会の重要なインフラを支える人材育成学部が直面している組織改革は、重要局面を迎えており、組合としてもその動向を注視しているところです。

教職員の皆様が、一人でも多く組合へご参加下さり、労働環境の改善にお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

(連絡先)

委員長 大橋 功

isa-o@okayama-u.ac.jp

書記長 諸田 大輔

d-morota@okayama-u.ac.jp



附属学校園職員組合

附属学校園の教職員は、岡山県との人事交流で、県内の幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校から転勤してきています。そのため、組合員の権利の保障と待遇の改善に関する活動については、県や市の待遇と比較しながら交渉をしてきていま

す。民主的な職場の確保について、教職員からのアンケートを基に、勤務時間に関わること、変形労働時間や休暇に関わること、賃金に関わることなどについて話し合い、職場の声を届け続けることで、少しずつ改善されてきています。今後も引き続き交渉し、ぜひ改善につなげていきたいと思っています。

また、組合のもう一つの大切な活動、附属学校園の職員の交流・親睦では、夏休み中を中心にレクリエーションを行ったり、『ODU ポロシヤツ(またはマフラータオル)』の組合員への配付を行ったりしてきました。

これまでの先輩方の活動のおかげで今の職場があることに感謝しつつ、今年度も活動をつなげたいと考えています。是非、組合への参加、および、ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

無料法律相談 『ユニオン』をご利用ください

セクハラ、アカハラなどの労働環境問題、あるいは個人的な問題でも結構です。プライバシーを厳守するために、組合執行部とは別組織である人権部が相談を受け付けています。法的な相談をしたい組合員のために顧問弁護士を置き、希望者には、最初の弁護士相談を無料で受けられる「ユニオン」を設けています。法律相談は、随時、弁護士事務所で行います。相談を希望される方は、人権部までお申し込みください。
連絡先：竹島あゆみ 文学部教授 内線7394

医学部職員組合



新しく入職されたみなさん、おめでとうございます。今年就職した方々、新たな職場に就いた方々、夢と希望を抱きながら多忙な毎日をお過ごしではと思います。岡山大学の中でも鹿田地区は教育、研究及び医療という大きな3本柱から成っている職場で、さまざまな職種と幅広い年代の教職員が働いています。そのような中にあると同じ教職員とはいえ、各職場により、考ええること、話してみたいこともさまざまです。

医学部職員組合は、さまざまな職場の組合員から成り立ち、職場の垣根を超えて、情報を発信したり、拠りどころとなったりします。より良い職場をつくろうと、職場アンケートや国会請願署名を行ったりして声を束ね、みなさんとともに活動しています。また、組合に入ると“ろうきん”や“教職員共済”の各種保険など生活を守り支援する特典がお得に利用できます。すぐ身近にある職員組合を大いに利用してください。平日は、書記さんがいますので、何でも聞きにお越しください。お待ちしております。

組合事務所は、中央診療棟3階北側通路東寄り
にあり、黄色い看板が目印です。
鹿田内線：7632 (平日11時～15時)
e-mail: shikataunion@gmail.com

組合員の声で実現しました！



●編入試験の入試手当が支給されるようになりました

理学部・工学部の3年次編入試験に教員が従事しても入試手当がついていない問題について、組合では昨年11月8日の団体交渉で指摘し、入試手当をつけるよう要求しました。大学は、つける方向で検討している、と回答していましたが、この度「博士論文審査手当及び入試手当支給基準」が一部改正され、「入学定員を有する編入学試験」も支給の対象に加えられました。平成30年4月1日から施行され、特別入試などと同様に1回3000円(4時間未満の場合は1500円)です。

●出前講座の交通費は非課税になりました

本学教職員が高大連携事業などで高校に向くと、高校から交通費が支給されます。しかしその際、実費から所得税が源泉徴収され、赤字になる場合があります。組合がこの問題を大学に指摘し、大学が岡山県に照会したところ、岡山県は「岡山大学と岡山県の協定に基づく事業では、交通費には源泉徴収の必要がない」ことを確認、平成30年3月9日付で県下の高校に周知徹底するに至りました。岡山県立高校への出前講座へ行かれる際には、交通費の明細を確認してみてください(但し、協定事業でない場合、謝金が出る場合は対象外となります)。

上記はいつでも組合員の声をもとに、組合が大学に指摘して改善されたものです。「何か変だな？」と感じることは、ぜひ組合にご相談ください。組合が大学に皆さんの声を届けます。

4/5 賞与の評価に関する要求書を提出しました

現在、私たちの賞与（ボーナス）の勤勉手当は職員勤務評価や教員活動評価の結果が反映され、評価がよければ勤勉手当の額が増える仕組みになっています。



一般職員や医療職員については上半期の評価が12月の勤勉手当に反映され、下半期の評価が翌年度の6月期の評価に反映されるのですが、教員の教員活動評価は年1回であり、その結果が12月期と翌年度の6月期に反映される仕組みになっています。ですから教員については12月期と翌年6月期では同じ評価となるはずですが。

ところが、組合に、複数の教員から「12月期の評価より翌年度の6月期の評価が下がっている」との情報が寄せられました。そこで組合ではいったいなぜそのようなことが起こっているのかを明らかにするために2017年9月26日と2017年11月30日に質問書を提出し、それぞれ2017年10月31日、2017年12月21日に回答を得ました。それにより、現在次のような仕組みで勤勉手当の額が決まっていることがわかりました。

(1) 12月期については10月1日の教員の人数によって各部局の成績優秀者の人数を決める。

(2) 各部局では割り当てられた成績優秀者の人数になるように評価を行う。

(3) 6月期については5月1日の教員の人数によって各部局の成績優秀者の人数を決める。

(4) 各部局で割り当てられた成績優秀者の人数になるように評価を変更する。

全学での成績優秀者の割合は一定ですので、10月から翌年5月までの間の教員の異動により、ある部局は成績優秀者の人数が増え、ほかの部局は成績優秀者の人数が減ることになり、その結果12月期より翌年6月期の評価が下がる人・上がる人が出ているというのが現在の岡山大学の仕組みです。

しかし、この仕組みは評価を受ける教員にとっては公平なものとは思えません。そもそも教員は年に一回しか評価を受けていないのに、いつの間にかその評価が上がったり下がったりするのは納得できません。教員活動評価は教員個人の活動を評価しているはずなのに、部局の教員の数の変化によってその評価が変化するというのでは、いったい何を評価しているのかよくわかりません。教員のモチベーションにも関わる問題です。

そこで組合では、評価と勤勉手当の関係を明確にするように以下の要求書を提出しました。

教員に対して行われている教員活動評価は教員個人を単位として行われているものと組合としては認識しております。大学として優秀者定数を現員数に応じて配分するという運用を行なっていることは、分野の異なる教員の活動を直接比較することは非現実的であることから当然であると考えますが、教員活動評価が年1回であるのに、賞与支給時点での現員数によって部局に割り当てられる優秀者数が変化すると、前回から評価は行われていないのに賞与が下がるという例が現実に出ています。これは教員の勤労意欲を著しく削ぎ好ましくありません。組合としては優秀者の定数を一定にすることよりも同一人物を優秀者として評価することが望ましいと考えます。

そこで岡山大学職員組合としては以下の要求を行います。4月27日（金）までに回答をよろしくお願ひします。

要求項目：

1. 12月期に優秀者と評価されたものは翌6月期も優秀者とすること。
2. その上で優秀者の数が12月期と翌6月期で同じにならない場合は12月期に優秀者と評価されていなかったもののうちから翌6月期の優秀者を選定すること。

以上

大学からの回答が来ましたら組合だよりでお知らせします。

長時間労働是正・子育て支援は病院含む大学全体の問題 一労使で解決へ取り組みを

全大教病院協議会、文科省会見 (2018年3月14日 於：霞ヶ関)

全大教出席者：長谷川議長、石川副委員長、小河幹事、
長山書記長、永井書記次長



文部科学省大学病院支援室と会見を行いました。会見では、まず文科省側から平成30年度予算の概要や文科省施策の説明の後、消費税増税に伴う病院の影響、設備更新、処遇改善、手当の問題に加えて働き方改革や子育て支援等幅広く大学病院を取り巻く環境を中心に意見交換を行いました。

各大学の努力で、病院の収入が増加し続ける一方で、医療材料の高騰や消費税増税の影響により減益傾向になっていることを訴え、また予定されている消費税増税への対応策を要望しました。文科省としても改善を進めたいとしたものの、年々財務省との折衝が厳しさを増しているとの回答でした。

また、法人化以降の承継職員と承継外職員や任期付き職員の雇用体系や処遇の問題について、文科省側も各医療専門職別の会議等を含めて情報収集は行っているものの、現場で実際に起こっていることは十分に把握出来ておらず、協議会幹事が所属する大学で実際



に行われている運用に関して関心を示しましたが、最終的には財源であり診療報酬等で取れるものは取れるように各大学で分析を進めて行くべきだという態度で、平行線をたどりました。しかし、文科省側も各法人の独自の対応を取ることが出来る部分を認めており、利用出来る予算や診療報酬での収入確保で処遇改善の努力を図って欲しいという説明がありました。

「働き方改革」に関連して労働時間管理や長時間労働、子育てをしながらの勤務に関しても意見の交換がなされました。文科省では会見直前の3月6日付けで附属病院を置く各国公私立大学長宛に「医師の労働時間短縮に向けた緊急的な取組」についてという通知を発出した点の説明がありました。しかし、医師だけではなく、メディカルスタッフ全体の問題であり、ましてや病院だけではなく大学全体の問題であるという点で、双方の考え方は共有できました。病院部門だけではなく大学全体の問題として、組合側からも取り組んで欲しいという回答でした。

また子育ての支援に関しても保育所の設置は各大学とも行っているが、夜間・休日の体制等の開設時間・病児・利用料金等について単に保育所の設置状況だけではなく、利用費や補助等の運営実態についての調査を要望しました。

※「要望書」短縮 URL <https://goo.gl/hfrSgk>

(副委員長 小河達之)



組合合唱団で一緒に歌いませんか？

こんにちは！職員組合合唱団です。
合唱団では月に3回、金曜日の夕方6時から北公民館で練習をしています。レパートリーは世界や日本の名歌から心にジーンとくる懐かしい歌まで、様々な曲で合唱を楽しんでいます。毎回簡単なストレッチで練習スタート、発声練習、そして歌声が部屋いっぱい、公民館いっぱい(?)に広がっていきます。みんなで楽しく歌って身も体もほぐれ、一週間の疲れから開放！です。一度、覗いてみてください。お待ちしております。

お問い合わせは、組合(内7168)まで

教職員共済

非常勤教職員のみならずも
加入いただいています

総合共済

月掛金900円で12の保障

教職員賠償+個人賠償で

業務中も日常生活も安心

教職員共済生活協同組合 大学事業所

フリーダイヤル：0120-628-095

<http://www.daigaku-kks.jp/>



花水木咲かせ妖精飛び立ちぬ 一代



東西道路のハナミズキが美しい季節になりました。

ローカル線で行く！フーテン旅行記 第51回 ホームの前は一面の海！ 予讃線 愛称 愛ある伊予灘線) 下灘駅

工学部単組 大西孝

駅に貼られている色とりどりのポスター、旅情を誘う意匠を凝らしたのも見受けられ、特に「青春18きっぷ」のポスターには、秀逸な「作品」と言えるべきものが数多くあります。そんな中で、小さな屋根のある駅のホームの向こうに一面の海が広がるポスターが特に印象に残っています。さあこんな絶景の駅はどこにあるのでしょうか？答えは愛媛県の予讃線にある下灘（しもなだ）駅で、この駅は景色の良さからか、一度のみならず、数回「青春18きっぷ」のポスターの題材に選ばれています。

予讃線は高松から松山を経て、宇和島までを結ぶJR四国の幹線で、岡山や高松からの特急列車が頻繁に走ります。しかしながら、愛媛県の西部では、一部の区間で普通列車しか走らない、完全なローカル線になった区間があります。愛媛県の伊予市から大洲市にかけての海沿いの区間では、海からやや離れた内子（うちこ）を経由する新線が開通し、すべての特急列車や普通列車の半数程度が内子を経由するようになったためです。それまでは本線だった向井原（むかいばら）駅から伊予長浜駅を経て伊予大洲駅に向かう海沿いの区間は1日10往復程度の普通列車が走るだけのローカル線に凋落してしまいました。ただし、この区間は景色が良いので、「愛ある伊予灘線」という愛称が付けられ観光列車も走っています。最初にご紹介した下灘駅もこの区間に含まれており、鉄道ファンにとっては、一度は訪れたい駅



下灘駅に到着した列車。1本のホームの後ろに海が広がり、小さな屋根があるだけの駅です。

あなたも組合の仲間になりませんか？

..... きりとり

岡山大学職員組合加入申込書

(組合事務所宛に提出してください)

岡山大学職員組合に加入します。

同時に組合費の口座引き落としに同意します。

氏名：

所属：

連絡先(内線・Eメールなど)

性別： 男・女



です。

松山駅から愛ある伊予灘線（伊予長浜経由）のディーゼルカーに乗ると、伊予市の次の向井原駅で、内子へ向かう線路と別れます。内子方面の線路は立派な高架橋ですが、こちらは高架から降り、格の違いを見せつけられます。次の高野川（こうのがわ）駅からは眼下に瀬戸内海が広がります。線路は海岸から高いところを走っており、海を見下ろしながらの列車の旅は実に爽快です。一つだけ残念なのは、この辺りを走る車両の多くは窓を背にして座る地下鉄のような座席で、せっかくの景色を見るには、首を曲げてやや窮屈な姿勢を取る必要があることです。幹線だった時代の面影が残る駅もありますが、列車がすれ違うための線路が撤去された駅などもあり、かつて特急や急行が行き交った時代とは対照的な光景が広がります。潮風を受けながら快走した列車は、やがて下灘駅に着きます。この駅はホームが1本、小さな屋根と木造駅舎があるだけの、まさにポスターのとおりたたずまいです。一方でいつ訪れても、ホームにはこの駅を見に来た観光客がいて賑やかな印象です。ある年の夕方に訪れたときは、ホームで結婚式が開かれており、ポスターの静かな雰囲気とは全く正反対で新鮮でした。この駅は昼間に訪れるのもよいですが、日没の前後に訪れると、夕日が海面に反射して、息をのむようなシーンが見られます。列車の本数は少ないですが、夕方の18時台は、30分程度の間隔で伊予大洲方面への列車が来ますので、この時間が日没となる4月や9月に訪れてみるのも良いでしょう。ホームに出ると一面の海が広がり、慌ただしい毎日をしばし忘れることができます。



海をバックにして桜が咲く光景も下灘駅の付近では見られます。夕陽を見るには4月か9月の18時頃の列車がお勧めです。



夕暮れ時は駅のホームから海がオレンジ色に見え、絶景です。この日、ホームでは結婚式が行われており、風船などの飾り付けもありました。

法人職員の給与・労働条件は、労使交渉で決まります！1人でも多くの皆様が加入していただくことで、労使交渉における組合側の発言力は大きくなり、よりよい労働条件を実現していくことができます。